

経済学委員会（第23期・第2回）

議事次第

1. 会議名 経済学委員会（第23期・第2回）
2. 日時 平成27年4月10日（金）12時30分～13時30分
3. 場所 日本学術会議 2階大会議室
4. 議題
 - （1）前回議事要旨（案）の確認
 - （2）23期の活動方針について
 - （3）分科会の活動状況について
 - （4）その他
5. 資料
 - （1）経済学委員会（第1回）議事要旨（案）
 - （2）数量的経済・政策分析分科会第1回議事録
 - （3）IEHA分科会第1回議事録

日本学術会議
経済学委員会数量的経済・政策分析分科会議事録
第23期 第1回

- 1 開催場所 日本学術会議 6-B 会議室
- 2 開催日時 平成27年3月6日(金)10時00分から12時00分
- 3 出席者 市村 英彦
(50音順) 宇南山 卓
大森 裕浩
北村 行伸(世話人)
塩路 悦郎
西山 慶彦
福重 元嗣

【議題】

(1) 役員人事の決定

北村世話人から、委員長に西山委員、副委員長に福重委員、幹事に宇南山委員との役員人事が提案され、全員一致で選出された。以後の議事は、西山委員長の司会で進められた。

(2) 今後の活動内容に関する意見交換

第23期においても、日本経済学会でのチュートリアルセッションについて継続することが確認された。

例年は、春季大会での開催であったが、今年度に関しては準備が遅れているため秋季大会での開催の可能性も検討された。日本経済学会としては対応可能とされていることから、適切なテーマと担当者が決定できるのであれば、春季大会での開催を目指すこととなった。

具体的なテーマの候補として、市村委員よりボストン大学の海道宏明氏が5月に来日していることから、不等式制約推計のトピックで依頼したらとの提案があった。また、引き受けてもらえた場合には、実証面について、一橋大学の臼井恵美子氏か横浜国立大学の奥村綱雄氏、もしくは両者にもお願いすることも併せて提案された。

謝金、旅費ともに学術会議の予算では準備できないことが確認され、資金的な手当てをする必要があることが確認された。

西山委員長より、東京大学の矢島美寛氏に空間計量のテーマでの依頼をすることが提案された。また、引き受けてもらえる場合の、実証面で講演者について議論され、筑波大学の堤盛人氏、広島大学の瀬谷創氏などが提案された。

宇南山委員より、官庁統計の比較と性質に関するテーマが提案された。特に、家計関連の統計については、すでに研究をまとめており、5月の春季大会でも対応可能との旨であった。

市村委員より、関連するテーマとして、官庁統計の利用方法についても議論することは本分科会の活動としても重要でないかとの指摘があった。現在の官庁統計の利用手続きが、利用者にとって分かりにくいため、分科会として担当省庁に働きかけることは重要であるとの意見もあった。

官庁統計の利用手続きについては、統計委員会の所管ではないかとの指摘があつたが、現実には統計委員会で議論がされる可能性は低いとの意見もあり、学術会議として議論することの重要性は共有された。

実際に議論を進めるに、各種学会と協力し最終的な意見は学術会議が取りまとめることが良いのではないかとの意見があった。協力を要請する学会の候補として、日本経済学会、統計学会、医療経済学会などが挙げられた。また、学会ではないが東京労働研究会、関西労働研究会、関西計量経済研究会なども連携する可能性があるとの指摘された。

さらに、学術的な統計の利用においては、リバイズの際の再申請手続きも重要なテーマであると確認された。また、長期的には、年金、税務統計などの業務統計の利用可能性を高めること、マイナンバーの統計面での利用についても議論をする価値があるとの意見があった。

官庁統計の利用手続き関連の課題については、本分科会で議論を進め学会等でシンポジウムなどを開催し、最終的には「提言」もしくは「声明」を採択することも視野に入れて議論するとの方向性が共有された。

宇南山委員提案の官庁統計の性質については春季大会で確実に開催可能であることから、今年度のチュートリアルセッションについて春季大会で開催することを確定した。テーマとしては、本年度の固有の利便性があることから海道氏として、早急に引き受け可能かを確認することを決定した。海道氏が引受不可の場合には、宇南山委員のテーマで開催することとした。

今後のチュートリアルセッションのテーマとして、大森委員による逐次モンテカルロの最近の発展の紹介、単位根関連の文献整理などが提案された。後者については、近接単位根など最新のテーマも同時に紹介してらうのが良いのではとの意見があった。

その他の活動として、関西計量経済研究会のサポートを継続することが提案され、了承された。また、同様のサポートを応用計量研究会に出すことが提案され、すでに若手を中心に研究発表の場として機能していることを踏まえ、今後は学術会議と共催するなどの対応をすることが了承された。

数量的な研究の学会発表の機会を増やす努力が必要であるとの意見が出され、日本経済学会等に招待講演者を推薦することが提案された。今後、可能であれば、分科会として招待講演者の推薦を検討することが了承された。

さらに、特に若手の学位論文やジャーナル掲載論文などを分科会として、表彰することが提案された。表彰対象の論文の選定、評価の方法を含め、今後検討していくことが了承された。

次回の分科会は、新潟大学で開催予定の日本経済学会春季大会で開催されることが確認された。日程調整については、宇南山幹事が担当することが確認された。開催場所の確保については、西山委員長がローカルコミッティに問い合わせることとされた。

経済学委員会 IEHA 分科会（第 23 期第 1 回、2015.3.11）議事録

1.出席者

岡崎哲二、神田さやこ、鬼頭 宏、菅山信次、杉原 薫

（欠席：宮本又郎、吉川 洋）

2. 第 17 回世界経済史会議の準備状況について

岡崎委員長より、2015 年 8 月 3 日～7 日に予定されている第 17 回世界経済史会議の準備状況を、①日程、②Plenary sessions、③一般セッション、④参加登録、⑤財務、⑥宿泊施設、⑦エクスカージョン、⑧市民公開講座の各項目について説明し、意見交換を行った。

3. IEHA 理事会の構成について

2015 年 8 月の IEHA 総会に提案される次期理事会のメンバーが、2014 年 11 月の IEHA 理事会で決定された。提案される次期理事会のメンバーについて、岡崎委員長から報告があった。

4. 分科会役員について

IEHA 分科会の委員長を岡崎が引き続き努めることが了承された。また、斎藤修一橋大学名誉教授を第 17 回世界経済史会議開催のため、引き続き特任連携会員として申請することが決定された。

4.その他

特になし。